

香建士第1号様式の2

実務経歴書

- 注意 1 この実務経歴書は勤務先（自営業を含む。）毎に作成し、今までの建築に関する実務の経歴について登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。
- 2 記載内容の記入不備や疑義が生じた場合、再提出や追加書類の提出を求められることになり、登録が遅れる場合があります。
- 3 虚偽の実務経歴を記載した場合、建築士法上の措置や登録が認められない場合もあります。

私は、二級・木造 建築士の免許を受けたいので、建築実務の経歴を下記の通り記載し、併せて第三者がこの実務経歴書の内容が事実と相違しないことを確認したことを証する実務経歴証明書（香建士様式第1号の3）を提出します。私は、次の事項が真実で、かつ正確であることを誓います。

① 令和 ○○年○○月○○日

香川県指定登録機関

一般社団法人香川県建築士会 会長 様

② 氏名 建築 士郎

勤務先等

③ 勤務先（部課名まで）	④ 所在地（番地まで）	⑤ 在職期間の合計	
		年月～年月	年月数
株式会社○○建築設計事務所 ○○部○○課	○○県○○市○○町○○丁目○○番地	R4年4月～R6年11月	2年 8月
⑥ 建築実務経験期間		⑦ 地位職名	⑧ 建築実務の内容（建築士法施行規則第1条の2）
年月～年月	年月数		
R5年 4月 ～ R6年11月	1年 8月	主任	建築物の設計に関する実務
R4年12月 ～ R5年 3月	0年 4月	課員	建築物の工事監理に関する実務
年 月 ～ 年 月	年 月		

建築実務の詳細（申請する実務を新しい順に記入）

建築実務経験期間の合計 ⑭

2年 0月

(1)	⑨ 対象物件の名称等	⑩ 対象物件の所在地	⑪ 建築実務経験期間	
	○○小学校	○○市○○町○○丁目○○番地	年月～年月	⑫ 年月数
			R5年4月 ～ R6年11月	1年8月
⑬ 実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等）				
[1 C - 0 1] 小学校（木造3階建て、延べ面積3,000㎡）の新築工事の基本・実施設計業務において、基本設計にて平面、立面、断面計画等の作成補助を、実施設計にて一般図（平面、立面、断面）の作成補助、および確認申請の図面作成補助を担当した。				
(2)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間	
	○○邸新築工事	○○市○○町○○丁目○○番地	年月～年月	年月数
			R4年12月 ～ R5年3月	0年4月
実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等）				
[5 C - 0 1] 専用住宅（木造2階建て、延べ面積165.75㎡）の新築工事において工事監理補助を担当した。				
(3)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間	
			年月～年月	年月数
			年 月 ～ 年 月	年 月
実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等）				
[]				

実務経歴書 記入要領

- ※ 建築実務を行った勤務先が複数あり、各々の建築実務経歴をもって免許申請を行う場合は、勤務先毎に実務経歴書を作成してください。
- ※ 記入例を参考にして、黒または青色の万年筆またはボールペンを使用（インクが消せるものは使用不可）し、楷書で丁寧に記入してください。
- ※ すべての事項をパソコンにより入力することも可です。その場合は黒字で入力してください。
- ※ 申請する実務については、業務始期が新しい実務から順に記入してください。必ずしも申請時点の直近の実務を記入する必要はありません。

① 申請年月日

免許申請を行う年月日（提出日）を和暦で記入してください。

② 氏名

「二級建築士免許申請書」と同様に住民票上の本名を正確に記入してください。

③ 勤務先

実務経歴書に記入する建築実務を行った勤務先の名称を部課名まで正確に記入してください。部課がない場合は、勤務先の名称まで記入してください。実務経歴書に記入する実務を行った部署を異動等している場合は、現在の所属先ではなく、実務を行った部署をご記入ください。

④ 所在地

「③ 勤務先」の所在地を都道府県から番地まで正確に記入してください。

⑤ 在職期間の合計

実務を行った法人に入社してから免許申請時までの在職期間とその年月数を和暦で記入してください。ただし、同一の法人において部署の異動により複数の実務経歴書を作成している場合については、各実務経歴書の当該欄は実務を行ったそれぞれの部署の所属期間を記入してください。

年号は、昭和を「S」、平成を「H」、令和を「R」というようにアルファベットの頭文字による表記としてください。（例：昭和 60 年の場合は、「S60 年」、平成元年の場合は「H1 年」、令和 2 年の場合は「R 2 年」）

⑥ 建築実務経験期間

「⑧ 建築実務の内容」で記入する建築実務を行った期間とその年月数を記入してください。

注意：「⑥ 建築実務経験期間」は、入社から免許申請時の期間を記入するのではなく、記入する実務内容を行った期間を新しい順に記入してください。

⑦ 地位職名

「⑧ 建築実務の内容」で記入する建築実務を行った際の地位職名を記入してください。地位職名がない場合は、記入漏れとの区別のため、「—（ダッシュ）」を記入してください。

⑧ 建築実務の内容

「対象実務の例示コード表」内における対象実務の例示の中から選択して記入してください。

例：令和2年3月以降に建築物の設計を行った場合は、同表の「⑨建築物の設計に関する実務」を記入してください。

⑨ 対象物件の名称等

物件の名称等を具体的に記入してください。建築実務が物件名で示せない行政関連や研究・開発等の実務の場合は、行った建築実務の内容を簡潔に記入してください。

なお、業務上の秘密保持や個人情報保護の観点により具体の物件名称を記入できない場合は、イニシャル等を用いて記入してください。（例：佐藤邸 ⇒ S邸）

⑩ 対象物件の所在地

「⑨ 対象物件の名称等」で記した物件の所在地を記入してください。所在地が示せない建築実務である場合は、記入漏れとの区別のため、「—（ダッシュ）」を記入してください。ここでいう所在地が示せない建築実務とは、多数の既存建築物の審査・評価・調査等、建築教育に関する実務、建築物に係る研究開発に関する実務、及び大学院の課程におけるインターンシップ等の場合を示します。建築物の設計、工事監理、施工管理業務を行った場合は、対象物件の所在地を必ずご記入ください。

（発注者との間で守秘義務の取り決めがある場合でも、市区町村名までは記入してください。未記入の場合は再提出をお願いすることがあります。）

⑪ 建築実務経験期間

・ 当該建築実務を行った期間を年月まで和暦で記入してください。年号は、昭和を「S」、平成を「H」、令和を「R」というようにアルファベットの頭文字による表記としてください。

・ 実務を行った期間が1か月に満たない場合は切り捨てて計算してください（例1）。

なお、実務経験期間は、申請月の前の月までを実務経験期間とすることができます（例2）。

例1：実務経験期間4か月と13日の場合・・・4か月

例2：申請日が令和4年2月3日の場合、令和4年1月までの実務が実務経験期間として認められます。

・ 2つの実務を連続して行った場合、1か月に満たない日数が短い方は切り捨てて計算し、長い方は切り上げて計算してください。

例：AとBの実務が連続する場合

Aの実務 4月1日～8月10日……8月分を切り捨てて4か月（4、5、6、7月）と計算。

Bの実務 8月11日～11月30日……8月分を切り上げて4か月（8、9、10、11月）と計算。

・ 一定の期間内に複数の対象実務に従事している場合、重複期間内においては各々の実務の従事時間数に関わらず、業務始期が新しい実務をその期間内において従事した実務として記入してください。

⑫ 年月数

「⑪ 建築実務経験期間」の年月数を記入して下さい。

⑬ 実務経験の対象となる業務の内容

●コード番号について

[] 内には、「対象実務の例示コード表」を参考に、対象実務に対応したコード番号を記入してください。

⑭ 建築実務経験期間の合計

「⑫ 年月数」の合計値を記入してください。